

『絵画研修＝描画活動』から「子どもを学ぶ」

理事長 片山喜章

はっと保育園では「おかだみほこさん」の絵画講習を続けて3年目になりますが、4月20日、なかはら保育園でも、はじめて、5歳児、4歳児を対象に絵画研修を行ないました。

日本の保育界全般に「描画活動」といえば、建前的には「子どもの表現を引き出す」などとキレイ事を言いながら、実態は園長や保護者の評価を気にしつつ「大人の思いにはめ込む作品づくり」になってしまう傾向が在ります。はっと保育園では、この2年間、出来栄への良い作品づくりめざして、型にはめるような指導をしないことによって、子どもが表現意欲を露わに出しながら作品作りに挑む姿がありました。“おかださんの指導”は、遊び込みの結果として表現活動に導くものです。例えば、スイカを全体でボールに見立ててパスをして遊んで、そこで（わざと）落としてみんなが“あっ！”と声をあげる状況を作って、「じゃ〜」といって割れたスイカに手を突っ込んで食べる！子どもは「マジ？」と呆れつつ、順番に手を突っ込んで食べると盛り上がり、その後、スイカを描くと、わくわくした雰囲気にもまれて、3原色（赤青黄の絵の具）を奔放に使って、それぞれ味わいの異なるスイカを描き出すというものです。

この日のおかださんは、倉庫の中からもったいぶって傘を持って登場し、傘をひろげると中に溜めておいた水がバツと飛び散り（床は全面ブルーシート）、周囲は水浸しになり、子どもたちは一瞬、啞然とした後、水に浸した画用紙を机に置いて指で3原色を自由にのせて、色のにじみや混じりを楽しみました。途中から（期待通り）両手を使ってぐちゃぐちゃにぬたくり、一人が何枚も何枚も“おかわり”をしました。手や顔にぬたくる子どももでてきました。

《こんな場面を見て、大人である貴方はどう評価しますか？ 非常識だと眉をひそめませんか？！ “ほどほどにすべき！”と常識＝大人の価値観で評価しませんか？！》 この日、私たちは、何をしても褒めたり共感するだけの言葉と表情で対応しました。いつもとちがう？私たちの姿に“安心”したのか、異様なまでにハッピーな空間が出来上がり“最高級の楽しいひととき”を過ごしました。日頃、ずっと寡黙で自己発揮しづらかったAくんがハイテンションできらきらしながらおしゃべりする姿を私たちは始めて見ました。「排出」「表出」という経験をしっかり重ねて、はじめて、頭で考える既成の表現とは違う本来の人間としての「表現活動」に至るという考え方で実践することが「保育する」ということです。そのためには大人（社会）が「子ども」あるいは「子どもらしさ」を子どもといっしょに遊び込みながら、感じ取り学び取り、勇気を出して自分崩しをしないと、子どもはたくましく育たない！とご理解下さい。

夕方の職員研修、私たちは、子どもと同じように濡れた画用紙に3原色を使って指や手でぬたくりをしました。静寂と集中の状態が長く続き、“子ども”をリクツ抜きで体感しました。

これ以上の職員研修はない！ 参加した誰もが実感した“最高級のひととき”でした。